

『語録解』と唐話辞書
— 『語録解義』との比較を通じて—

竹越 孝

1. はじめに

中国語は本質的に文語（文言）と口語（白話）との差が大きい言語であると言えるが、文語で使用される語彙と口語で使用される語彙を分け、口語語彙を文語で解説するという発想は、中国語を母語とする文化圏からは生まれ得ないものであったと思われる。最初に中国語の口語辞書が登場したのは、漢字を使用するものの中国語を母語としない文化圏に属する朝鮮半島においてであった。その辞書を『語録解』¹という。

本稿では、朝鮮半島で生まれた『語録解』が、日本の唐話学（中国語口語研究）にどのような影響を与えたかという問題を考察するために、最早期の唐話辞書と目される『語録解義』と比較してみたいと思う。

2. 『語録解』について

『語録解』は、『朱子語類』や『二程語録』など宋代の儒家語録に見られる語彙を集め、漢文とハングルで注釈を施したもので、初刊本である鄭養本の系統と、改訂本である南二星本の系統に分かれる。本書に関しては大谷（1981）及び安秉禧（1983a）が優れた概説をなしており、以下それに拠りつつ述べる。

鄭養本は、鄭養（1600-1688）が宋儒の語録類に対する朝鮮儒者の注、即ち李滉（1501-1570、号は退溪）の注（溪訓）、柳希春（1513-1577、号は眉巖）の注（眉訓）、及び退溪の門人たちの注の中から重要な語釈を選び取って語彙の字数別に配列し、これに一般的な口語語彙の注釈である「漢語集覧字解」と諸家の伝記から収集した語彙である「附録」を合わせたものである²。鄭養が慶尚道庇安の県監として在職していた際に、道内の各郡県で『朱子語類』を分担刊行したのち、余った版材を用いて孝宗8年（1657）に刊行させたものという。

現存の木版本によれば、鄭養本の総語数は1182語、その内訳は一字類が183

¹ 古来、朝鮮半島において『語録解』の名で呼ばれた書物には、①「朱子語録解」の系統に属するもの、②「小説語録解」の系統に属するもの、③白斗鏞編纂・尹昌鉉増訂『註解語録総覧』（1919）、④満洲語辞書『同文類解』（1748）やモンゴル語辞書『蒙語類解』（1790）に付載された文法解説、という4種があり、本稿で問題にするのは①である。

² 南二星本『語録解』凡例における関連の記載は以下の通り：「一、注下所謂溪訓者、即退溪所訓、退溪即先正臣李滉號也。眉訓者、即眉巖所訓、眉巖即故儒臣柳希春號也。其無標識者、則李滉門人所記、或後人所増云。」

語、二字類が 618 語、三字類が 76 語、四字類が 54 語、五字類が 13 語、六字類が 2 語、漢語集覧字解が 64 語、附録が 172 語となる。

南二星本は、顛宗 10 年（1669）に王の命令により南二星（生卒年不詳）が主となって鄭養本を改訂したものである。その際に、鄭養本の不備や難解な箇所については新しく注を付け、さらに鄭養本では巻末にあった「漢語集覧字解」と「附録」をも字数別の本文中に組み入れている。改訂の段階で新たに付された部分は「○」の記号で前文と区別される³。

南二星本には木版本のほか、木活字本、写本など多くの種類のテキストが伝存しているが⁴、そのうち最も古形を存すると思われる木版本によれば、総語数は 1050 語で、その内訳は一字類が 157 語、二字類が 737 語、三字類が 83 語、四字類が 58 語、五字類が 13 語、六字類が 2 語となる。全体として鄭養本から 133 語を削除し、1 語を増補したものであることが知られている⁵。

『語録解』の鄭養本と南二星本の木版本は、安秉禧（1983b）、弘文閣（2005）に影印が収められている。

3. 『語録解義』とそのテキスト

いわゆる唐話辞書というものを「江戸時代に日本で作られた中国語口語辞書」と広く捉えるならば、『語録解義』は最も早い時期に成立した唐話辞書と言うことができるだろう。その内容は、『語録解』と同様儒家の語録に見られる語彙を集め漢文で注釈を施したものである。ただし、『語録解』のように語彙が字数別に配列されているわけではない。佐村（1900）には本書について次の二つの解題が見られる。

語録解義 寫本一卷 林道春 朱子の語録中の難解の字を摘出して略解したるもの。延寶八年庚申寺西雅文の懇志によりて記せしものなりと云ふ。
(p.745)

語録解義 寫本一卷 山崎嘉 朱子の語録中より、俗語及び俗字にして解しがたきものを抄出して、一々義解を施したるものなり。(同上)

後述するように、上の二書は実際には同一書の異本という関係にあり、その著者を林道春即ち林羅山（1583-1657）とする説と、山崎嘉即ち山崎闇齋

³ 南二星本『語録解』凡例における記載は以下の通り：「一、舊釋或有未備且未分曉處、則未免僭附新注而加圈以別之。」

⁴ 『語録解』の現存テキストとその所蔵に関しては、遠藤他（2009）を参照。

⁵ 大谷（1981）によると、その内訳は以下の通りである：一字類 183 語→157 語（-27 語、+1 語）；二字類 831 語（二字類 618 語、漢語集覧字解 64 語、附録 149 語）→737 語（二字類-45 語、漢語集覧字解-6 語、附録-43 語）；三字類 88 語（三字類 76 語、附録 12 語）→83 語（三字類-3 語、附録-2 語）；四字類 65 語（四字類 54 語、附録 11 語）→58 語（四字類-6 語、附録-1 語）；五字類 13 語→13 語；六字類 2 語→2 語。

(1619-1682) とする説が存在していることになる。本書に関する先行研究としては、阿部吉雄 (1965)、近藤啓吾 (1986)、村上雅孝 (1993, 94, 95)、神林裕子 (1997) 等がある。

『語録解義』には刊本と写本が現存する。まず刊本は、記録によれば延宝 3 年 (1675) 刊本を始めとして複数存在していたようであるが⁶、現在目撃し得るのは延宝 9 年 (1681) 跋刊本で、波多野 (1991-95) の第 5 編第 2 巻にその影印が収められている⁷。解題によれば、1 冊、9.5×7cm、全 18 丁、有界、每半葉 5 行、行 8 字、注文小字双行。巻末の跋には次のようにある。

語録解義一冊、耆舊之藏也。世言藤斂夫先生所編撰也。予憶不然、疑非中華村儒之所著、則本邦叢林家之抄録也耶。字義之解然、韻書不載者間有之焉。茲者應棗人之需而附柳贅、加蛇足為童課之一助者也。時延宝歳次辛酉麥秋、山重頭把筆于銅駝寓舎。(18a1-18b5)

この跋をなした山重頭とは山脇道圓 (生卒年不詳)、儒者にして兵学を兼ねた人で、著書に『八陣圖説』1 巻 (1667)、『増補下學集』6 巻 (1669) 等、訓点に『分類補注李太白詩』25 巻 (1679)、『詩法指南』2 巻 (1681) 等がある。跋によると、本書は世に藤斂夫即ち藤原惺窩 (1561-1619) の編撰と伝えられるが、山脇自身は本邦の叢林家即ち禅家に伝わるものではないかと推定していることになる。

同本に挙げられる語彙の総数は 301 語であるが、うち末尾の 65 語は異体字や俗字を見出し語として掲げ、注として本字を記した部分であり、これが跋にいう「加蛇足為童課之一助」に当たると思われる⁸。よって実質的には 236 語、その内訳は一字語が 88 語、二字語が 139 語、三字語が 5 語、四字語が 4 語となる。

次に写本について述べる。村上 (1994) によれば『語録解義』の写本は国立公文書館内閣文庫に 2 種、国立国会図書館、日本大学図書館、久留米市立図書館に各 1 種の計 5 種が存するという。2 種ある内閣文庫本について、近藤 (1986) 及び村上 (1994) では『語録辭義』⁹を合載するものを甲本、含まないものを乙

⁶ 村上 (1994) の挙げる慶応義塾大学斯道文庫編 (1962-64) によれば、延宝 3 年 (1675)、元禄 9 年 (1696)、正徳 5 年 (1715) の目録に『語録解義』の名が見られるという。

⁷ 波多野氏の解題には次のように記されている：「袖珍一冊。撰者不詳。延宝辛酉 (天和元年—1681 年) の秋、刊。著者については跋文に優れた見解があるが、往時朝鮮に於ける読解の注記本が輸入され、本邦の学者が手を入れたり補ったりしたものであらう。文気から来る感覚からして、異字俗字の見解は参考となる。除是や除非の理解は洗練されてゐる。」

⁸ 同本の 16a4 から 17b5 までに当たる。いま、その部分につき本字のみを示すと以下の通り：職、般、養、風、過、壞、多、兩、對、亂、陰、陽、勸、亡、極、陰、陽、死、澤、賢、聖、義、徳、儀、議、婦、離、赴、備、猶、嘆、權、必、應、尔、至、諸、之、令、前、乎、然、退、饌、會、還、勢、齊、寵、壽、從、嚴、剛、及、觀、與、學、猶、足、惡、熟、剛、恨。

⁹ 『語録辭義』不分巻は、宋儒の語録に見られる語彙に対し主に漢文で釈文を付したもので、

本と呼んでおり、本稿もその呼称に従う。なお、村上（1994）によれば日本大学図書館本は内閣文庫乙本を写したものであり、久留米市立図書館本は内閣文庫甲本を写したものであるとされ、写本の系統は実質的に3種類と見てよい。以下村上氏の記述に拠りつつその概略を記すことにしたい。現存の写本はいずれも『語録解義』単独ではなく、他の篇との合冊という形を取り、3種とも『常話方語』¹⁰を含んでいる。

内閣文庫甲本（所蔵番号 191-384）は1冊、27.5×20.0cm、外題は墨筆で「語録解義 全」、全26葉、毎半葉8行。その構成は『語録解義』（1a-8a）、『常話方語』（8a-13b）、『語録辭義』（14a-15b）、及び『文會筆録』の摘録¹¹（15b-26b）である。巻末には「右山崎氏撰之。」（26b6）との識語がある。

同本は内題を欠く。全230語、その内訳は一字語が86語、二字語が131語、三字語が9語、四字語が4語である。

内閣文庫乙本（所蔵番号 191-377）は1冊、13.6×19.7cm、外題は墨筆で「語録解義」、全27葉、毎半葉9行。その構成は、『語録解義』（1a-8a）、『常話方語』（9a-19b）、『与汪德夏筆語』¹²（20a-21b）、『与朝鮮進士文弘續筆語』¹³（21b-27a）である。巻末には、「此書羅山先生之編述也。予秘不出者尚矣。今鏤梓以傳萬世者也。于時延寶六戊午曆正月上澣吉日。下總國本庄住人依田氏山本九左衛門板行。」（27a5-27b5）との識語があり、これによれば同本は延宝6年（1678）刊本に基づき筆写されたものであることがわかる。

同本の巻頭には「語録解義 林氏編」とある。全228語、その内訳は一字語が86語、二字語が129語、三字語が9語、四字語が4語である。

国会図書館本（所蔵番号 111-140）は1冊、25.6×19.2cm、全11葉、毎半葉9行。その構成は、『語録解義』（1a-4a）、『常話方語』（4b-8a）、『學術辭』¹⁴（8b-10b）

『語録解義』と同趣向の書と言える。近藤（1986）は本書を山崎闇斎の撰とする。

¹⁰ 『常話方語』不分巻は浅見綱斎（1652-1712）の撰とされ、『朱子語類』等に見られる語彙に和文で訓釈を付したもの。古典研究会（1969-76）の第5集所収。

¹¹ 『文會筆録』20巻は山崎闇斎の主著で、経書・朱子学に関する重要な文章を摘録し、簡単な評注や按語を記したもの。なお、この部分を近藤（1986）では『語録辭義』の続きと見て、これが後に『文會筆録』に収められたのだとし、村上（1994）では既に成っていた『文會筆録』より摘録したものとす。本稿では仮に村上説により記述した。

¹² 『与汪德夏筆語』は林羅山と明人汪德夏との筆談記録で、羅山が中国語の字義を問い、汪がそれに答えるという形を取る。『林羅山文集』巻59に同様の問答記録が収められている。汪德夏は流落の明人で、寛永15年（1638）当時脇坂淡路守の援助を受け書写を生業としていたという。

¹³ 『与朝鮮進士文弘續筆語』は林羅山と文弘績との筆談記録で、中国語の語義をめぐる問答が中心である。やはり『林羅山文集』巻60に同様の記録が収められている。なお、文弘績は寛永13年（1636）に来朝した朝鮮通信使の一行の一人で、この時の問答で羅山が提示した『吾妻鏡』所収の女真文字を「王国貴族」と解釈した人物としても知られる。

¹⁴ 『學術辭』は和文で訓釈を施した語彙集だが、口語的な語彙はごく少ない。本書につい

である。巻末には、「写本云。右羅山先儒語録解義者。就寺西忠右衛門雅丈懇志。延宝八年庚申仲夏廿日於武江麻布写書之了。」(11a1-3)、「于時貞享四丁卯終夏二日写書之了。政相。」(11b1-2)との識語があり、これによればもと延宝8年(1680)の写本を貞享4年(1687)に政相なる者が筆写したものと考えられる。上の佐村(1900)に見られる「寺西雅文の懇志」云々はこの記載に基づいたものであろう。

同本の巻頭には「語録解義 羅山」とある。総語数は238語であるが、末尾の12語には釈文がないので¹⁵、実質的には226語、その内訳は一字語が86語、二字語が127語、三字語が9語、四字語が4語である。

以上3種の写本のうち、内閣文庫乙本と国会図書館本は林羅山の撰とし、内閣文庫甲本は山崎闇斎の撰とする。いずれの写本も『語録解義』に他の諸篇を合載して一書をなすことについて、村上(1994)は「闇斎を著作者と考えたい者と羅山を著作者と考えたい者とが、各々意図的に編集したものと考えられる」としており、これは当を得た見解であろうと思われる。

4. 『語録解義』と『語録解』の対照

『語録解義』と『語録解』の類似性については阿部(1965)がその可能性を提起し、村上(1994, 95)及び神林(1997)において語釈の比較も試みられているのだが、特に『語録解』の扱いについて再考の余地があるように思うので¹⁶、本稿で改めて『語録解義』と『語録解』の語釈対照表を示す(付表参照)。『語録解義』は内閣文庫甲本を底本とし、『語録解』は鄭養本・南二星本とも安秉禧(1983b)所収の木版本の影印に基づき、不鮮明個所は弘文閣(2005)により確認した。ハングルは河野(1947)の方式によってローマ字転写する(ただしアレアはAで表す)。

5. 分析

5. 1. 全体的な傾向

『語録解義』に挙げられる全230語のうち、『語録解』鄭養本に見られるものは225語であり、南二星本に見られるものは206語である¹⁷。そのうち、“一面”

ては未詳。

¹⁵ 同本の3b8より4a1までに当たる。その語彙は以下の通り：恁地、只恁底、那裏、這裏、這/那處、只管恁、這/那箇、只恁、劈初頭、只恁休了、恁去、伎倆。

¹⁶ 村上(1994)では一字語、同(1995)では二字語について、『語録解義』と『語録解』との対照が試みられているが、例の挙げ方が散発的で、朝鮮語の解釈にもやや不安が残る。また神林(1997)では附録として『語録解義』の内閣甲本と『語録解』の南二星本の語釈対照表が掲げられているが、ハングルで記された部分は省略されている。なお、村上氏と神林氏の研究はそれぞれが独立して草されたものの如くである。

¹⁷ 鄭養本に見られる225語の内訳は、一字類が84語、二字類が127語、三字類が9語、四

の 1 例のみ鄭養本の「漢語集覧字解」に収められる他は、それぞれの字数に応じた「字類」の中に収められている。

村上（1995）では、『語録解義』の二字語を対象として『語録解』との比較を行い、その結果を 3 タイプに分けている。それぞれのタイプにつき代表的な例を挙げると以下の通りである（以下、『語録解義』は「解義」、『語録解』鄭養本は「鄭本」、南二星本は「南本」と略称）。

①全部あるいは一部一致するもの：

- (1) 定疊：安頓也。疊亦定字意。（解義 3b6）
定疊：安頓也。疊亦定意。眉訓堅定。（鄭本 5b1）
定疊：安頓也。疊亦定意。眉訓堅定。（南本 7b4）
- (2) 消詳：仔細也。（解義 4a1）
消詳：仔細。（鄭本 9b4）
消詳：仔細。○猶云須用詳細。漢語消與須同義。（南本 14a4）
- (3) 腔子：猶軀殼子。（解義 7a1）
腔子：軀殼。（鄭本 8b8）
腔子：軀殼。（南本 13a2）

②一致する箇所があるが、『語録解義』のテキストに誤写・脱文があると思われるもの：

- (4) 地歩：地頭也。（解義 7b6）
地歩：頭也。又地也。（鄭本 9a2）
地歩：頭也。又地也。○猶言里數也。（南本 13a6）
- (5) 骨董：飲食雜烹之羹。——羹雜也。（解義 8a5）
骨董：雜也。（鄭本 10a2）
骨董：雜也。○義見三字類¹⁸。（南本 14b7）

③注文が一致しないと思われるもの：

- (6) 零細：猶言瑣細也。（解義 1b8）
零細：猶箇々也。（鄭本 7b7）
零細：猶箇箇也。（南本 11b2）
- (7) 拆號：考官開見舉子卷號也。（解義 7a8）
拆號：赦之號令。出於易。（鄭本 11a1）

字類が 4 語、漢語集覧字解が 1 語、見られない 5 語の内訳は、一字語が 2 語、二字語が 3 語。南二星本に見られる 206 語の内訳は、一字類が 74 語、二字類が 119 語、三字類が 9 語、四字類が 4 語、見られない 24 語の内訳は、一字語が 12 語、二字語 12 語である。なお、南二星本に見られない 24 語には、鄭養本に見られない 5 語が含まれている。

¹⁸ 『語録解』南二星本の三字類“閑汨董”に、「○閑、間漫也。汨董南人雜魚肉置飯中謂之汨董羹。謂雜亂不切之事也。○漢語汨從木間相董猶朽株槪也。」(32a8)との語釈があり、「義見三字類」とはこの項目を指すものではないかと思われる。

拆號：bo-ram sde-hi-da [目印をはずす]。又榜 nai-da [告示を出す]。(南本 16a7)

(8) 疆輔：益友也。(解義 7b2)

疆輔：直諒友朋也。(鄭本 9b2)

疆輔：直諒友朋也。(南本 14a1)

村上氏によると、③の例はごく少なく、全体として『語録解義』の本文は、『語録解』の本文を抜き書きしたもの」と認められるという。

『語録解』においてハングルで記された部分の意味が『語録解義』の語釈に反映されているかという問題は、双方に解釈の幅があるため判断するのが難しいが、かなり意味するところが近いと思われるものもあれば、そうでないものもある。ほぼ意味が共通していると思われる例は次の通り：

(9) 漫：無聊意。(解義 5b1)

漫：him- // -ta [暇だ]。(鄭本 2b4)

漫：him-him-ta。(南本 3b2)

(10) 鎮：恒也。長在兒。(解義 5b3)

鎮：diang-siang [常に]。(鄭本 1b8)

鎮：diang-siang。(南本 2b1)

双方の意味するところが全く異なると思われる例は以下の通り：

(11) 捏：止也。又来之意。(解義 5a2)

捏：jui-da [握る]。又 mo-do-da [集める]。又 ji-be moi-ho-da [つまみ集める]。音 nar。(鄭本 3a4)

捏：jui-da。又 mo-do-da。又 ji-be moi-ho-da。音 nar。(南本 4a5)

(12) 合：的也。(解義 5a5)

合：mas-dang [当然]。又 bon-dAi [本来]。(鄭本 2a2)

合：mas-dang。又 bon-dAi。(南本 2b6)

なお、『語録解』において語釈に“a-da”「知る」を含む例は5例ほど見られるが、それぞれにつき『語録解義』の記載を見てみると以下の通りである：

(13) 了：知也。卒也。事畢也。(解義 4a8)

了：語辭。又 mAs-da [終える]。又 a-da。又 gos [即ち]。又 jam-gan [ちよつと]。眉訓在末句者事之已畢為一。(鄭本 1b6)

了：語辭。又 mAs-da。又 a-da。又 sjam-sgan。眉訓在末句者事之已畢為一。(南本 2a6)

(14) 解：知也。能也。(解義 5a8)

解：a-da。(鄭本 1a8)

解：a-da。○解糧解銀押解。皆輸到卸下之意也。(南本 1b4)

(15) 會：知解也。(解義 5b2)

會：a-da。(鄭本 2b4)

會：a-da。○hAn-di-ui du-di-ui [一回二回] 謂之一一二一。(南本 3b1)

(16) 委意：知兒。(解義 6a8)

委意：a-da。(鄭本 7a7)

委意：a-da。(南本 10b5)

(17) 知道：識也。(解義 6b6)

知道：a-da。(鄭本 5b3)

知道：a-da。(南本 7b6)

以上によれば、a-da にあたる『語録解義』の語釈は“知”、“知解”、“識”であり、概ね意味が対応していると言える。

全体として見れば、『語録解義』の成立に関し『語録解』が参照されていることはほぼ疑いないと言えるが、素材となった書物が『語録解』だけではないことも伺われる。

5. 2. 二つの『語録解』との関係

次に、『語録解』の鄭養本と南二星本で差異がある部分に注目し、それらと『語録解義』との関係を見ていくことにしたい。まず、『語録解義』の語釈が『語録解』の鄭養本とのみ共通していると思われる例を挙げると以下の通り：

(18) 羨：善也。(解義 1a6)

羨：音弋九切。善也。(鄭本 2a8)

羨：未詳。(南本 3a3)

(19) 賺過¹⁹：過為連着也。一重置也。(解義 3b1)

賺連：過為連着也。(鄭本 6a7)

賺連：○賺音湛。以輕物買重物曰賺。心經所謂賺。以大學不欺章連小人間居之章者也。(南本 8b7)

(20) 便：即也。又假使也。(解義 4b6)²⁰

便：gos [即ち]。又 suib-da [たやすい]。又私傳也。如風便是也。眉訓即也。猶假使也。又因人寄書謂之一。(鄭本 1b3)

便：gos。又 suib-da。又私傳也。如風便是也。眉訓即也。又因人寄書謂之一。○音見。平聲及去聲。安也。習也。便便言也。肥滿也。溲也。以上平聲。利也。宜也。順也。即也。便殿也。便安也。以上去聲。(南本 2a1)

¹⁹ 『語録解義』はいずれのテキストも“賺過”に作るが、『語録解』の記載から見て“過”は“連”の誤りであろう。

²⁰ なお、『語録解義』では“便”の項目が重出し、「便：私傳也。便中便人便風皆一語也。」(5b8) という語釈もある。

(21) 解額：解使遣之意。(解義 7b8)

解額：解使遣去之意。額數也。(鄭本 8b9)

解額：○秋闈鄉試之額數也。(南本 13a3)

その一方、『語録解義』の語釈が『語録解』の南二星本の方とのみ共通していると思われる例もある：

(22) 撩：扶也²¹。(解義 1a2)

撩：de-ui-jab-da [搦む]。(鄭本 2b1)

撩：de-ui-jab-da。○又扶也。取也。理亂曰撩理。(南本 3a6)

(23) 着：有為也。倚着也。又使也。(解義 4b1)

著：猶言為也。又 bys-da [付く]。又 du-da [置く]。(鄭本 1b8)

着：猶言為也。又 bys-da。又 du-da。○語辭。又使也。(南本 2a8)

(24) 直饒：假使。任其所為也。(解義 6b5)

直饒：hien-ma [どんなに]。又 bi-rog [たとえ]。又作饒。又 nen-jy-si [ひそかに]。(鄭本 7b1)

直饒：bi-rog。○假使之意也。(南本 11a1)

(25) 俛々：無見兒。(解義 7b7)

俛々：失路兒。(鄭本 8b8)

俛々：失路貌。無見貌。○一音長。又見敬韻。(南本 13a2)

以上の例によれば、『語録解義』が参照した『語録解』は、鄭養本と南二星本の双方であった可能性が高いと言える²²。

これに関連して興味深いのは、『語録解』の鄭養本には見え、南二星本に見えない 19 語において、『語録解義』と鄭養本の語釈が極めてよく一致していることである。

(26) 憇：溷洞也²³。薦舉也。(解義 1a3)

憇：溷全。(鄭本 2a4)

(27) 禁：乱也。(解義 1a5)

禁：乱也。(鄭本 2a5)

(28) 捽：持頭髮也。(解義 1b4)

捽：持頭髮也。(鄭本 2a7)

(29) 鋸：解截也。(解義 1b7)

鋸：解截也。(鄭本 3a7)

²¹ 『語録解義』はいずれもテキストも“扶也”に作るが、『語録解』南二星本の記載から見て、“扶”は“扶”の誤りであろう。

²² 村上(1995)では前掲の部分に続けて次のように述べている：「その際、依拠した『語録解』のテキストは、初刊本と修訂本の二種類であった可能性がある。」

²³ 『語録解義』はいずれのテキストも“溷洞也”に作るが、『語録解』鄭養本の記載から見て、“洞”は“同”の誤りであろう。

- (30) 一介：一方同。(解義 2b1)
 一介：一方全。hAn-di-ui [一回]。(鄭本 7b4)
- (31) 灑々：浄也。(解義 3a4)
 灑々：落々全。(鄭本 8a7)
- (32) 竈：音毳也。始為穴也。南陽人呼穿土為竈。又窟也。(解義 4b2)
 竈：音毳。(鄭本 3a4)
- (33) 弼：弼与同。(解義 4b5)
 弼：弼全。(鄭本 3a2)
- (34) 𦏧：音紅。飛也。(解義 5a2)
 𦏧：音 hong。飛也。(鄭本 3a3)
- (35) 僕：人也。(解義 5a4)
 僕：sa-rAm [人]。(鄭本 3a5)
- (36) 綫：音善。細絲。(解義 5a6)
 綫：音善。細絲也。(鄭本 3a3)
- (37) 澗：即浙字。(解義 5b4)
 澗：即浙字。(鄭養本 2a4)
- (38) 焦僂：短小人也。(解義 7a3)
 焦僂：短小人。(鄭本 9a9)
- (39) 谷簾：廬山瀑流散為簾也。(解義 7a4)
 谷簾：廬山瀑布散流如簾樣也。(鄭本 9b1)
- (40) 胖合：夫婦各半体合為合下初也。(解義 7a7)
 胖合：夫婦各半体合為一也。(鄭本 8b5)
- (41) 敦遣：州郡勸送之意。(解義 7b1)
 敦遣：州郡勸送之意。(鄭本 9a7)
- (42) 鐫職：猶言鐫除。(解義 7b1)
 鐫職：bie-sAr gA-da [官職を変える]。(鄭本 8b2)
- (43) 醍醐：酥之精液養成性令人無心。(解義 7b4)
 醍醐：酥之精液養成性令人無妬心。(鄭本 10b4)
- (44) 使臺：監司兼風憲。(解義 7b6)
 使臺：監史兼風憲。(鄭本 8b6)

上によると、(31) “灑々”、(42) “鐫職”の2例を除けば、ほぼすべての例において語釈が酷似している。ハングルで記される(34)の“音 hong”や(35)の“sa-rAm”も、それぞれ“音紅”、“人也”に対応するものと見てよいであろう。また、(30)の“一方同”、(33)の“弼与同”などは、明らかに語順が通常の漢文と異なっており、これも鄭養本の強い影響を感じさせる²⁴。

²⁴ この他、「由來：従来同。」(2a3)、「照領：照管同。」(6b2)なども同様の例と言える。な

こうした条件のもとで高い一致率が生じた原因は、『語録解義』の編纂過程に関わるものであろう。例えば、まず『語録解』の鄭養本を下敷きにして初稿が作られ、それに南二星本を始めとする諸本で手を加えていったため、南二星本に存在しない項目は置き去りにされた、あるいは、まず『語録解』の南二星本を下敷きにして初稿が作られ、その後に鄭養本にのみ存在する項目が追加された、といった可能性が考えられる。

6. 『語録解』と唐話辞書

一般に、何をもって唐話辞書とするかは非常に難しい問題であるが、試みに古典研究会（1969-76）所収の63辞書を分類・整理した岡田（2006）により、17世紀から18世紀前半にかけての初期唐話辞書における語彙の配列方式を調べてみると以下の通りである：

表1：初期唐話辞書における語彙の配列方法

No.	西暦	日本年号	書名	著編者	配列方式	備考
1	1694	元禄7	語録字義	不詳	字数別	
2	—	元禄以後	宗門方語	不詳	字数別	
3	1716	享保1	唐話纂要	岡島冠山	字数別	
4	1716	享保1	唐音和解	不詳	意味別	
5	1718	享保3	漢字和訓	井沢長秀	意味別	
6	1718	享保3以前	譯通類略	岡井孝祖	意味別	
7	1725	享保10	字海便覽	岡島冠山	書物別	
8	1725	享保10	唐話類纂	岡島冠山	字数別	二字話意味別
9	—	享保10以後	唐話爲文箋	渡邊益軒	字数別	
10	1726	享保11	唐音雅俗語類	岡島冠山	字数別	
11	1726	享保11	唐譯便覽	岡島冠山	いろは順	

上表によると、唐話辞書の最も原始的な語彙配列方式が「字数別」であったことは言を俟たないであろう。

さて、本稿で取り上げた『語録解義』は、記録によれば延宝3年（1675）刊本が最も古いテキストであるため、上表の『語録字義』²⁵に先行するものと言える。現存の『語録解義』自体は語彙を分類していないが、当時別のバージョンが存在していた可能性もある。というのも、山崎闇斎の『文會筆録』には『語

お、正格漢文と言える“与～同”の形も8例見られる。

²⁵ 『語録字義』は別名『語録指南』、一字部から五字部までの全472語に和文で訓釈を付したもので、『語録解義』と同趣向の書と言える。古典研究会（1969-76）の第8集所収。

録解義』からの引用が7例あるが、そこでは「二字類」「三字類」といった表現が見られるからである。

- (45) 不知道、道助辭。俗語也。唐人詩句用之。『語録解義』二字類：知道、識也。(卷一)
- (46) 『語録解義』三字類：一副當、一件也。(卷二)
- (47) 除非、『性理群書句解』曰：未有不如此而能者也。『語録解義』亦云爾。(卷二)
- (48) 『語録解義』云：儻侗、猶含糊。(卷十五)
- (49) 『語録解義』云：夯、音向、擔也。(卷十七)
- (50) 『語録解義』：管領得也。打空漫意也。特地各別也。物事語辭。索性猶言窮源也。頓放安置也。郎當散亂也。胖合夫婦各半體合爲合下和也。一也。歩下舟付也。一搽一般也。一遭一番也。下稍終也。末稍亦終也。生面工夫日新做功。直下承當正而的也。(卷十八)
- (51) 『語録解義』：恁地猶言如此。嘉謂、恁麼、與麼同。(卷十八)

これによれば、『語録解義』には語彙を字数別に配列したテキストも存在していたことになる。いわば、より『語録解』に近い形式の『語録解義』が流通していたわけで、だとすれば、『語録解』が『語録解義』を始めとする初期唐話辞書に「字数別配列」という発想をもたらしたというのもあり得ることである。朝鮮半島で生まれた『語録解』は、日本の江戸期における唐話辞書の形式を規定する存在であった可能性がある。

7. おわりに

本稿では、『語録解』が日本の唐話学にどのような影響を与えたかという問題を考察するため、最早期の唐話辞書である『語録解義』との比較を試みた。それぞれの項目における語積を見れば、『語録解義』と『語録解』の間に見られる類似性は疑うべくもないであろう。

この類似性が意味するところは、朝鮮半島における『語録解』の伝統が、日本における唐話辞書の成立に大きな影響を与えたということである。江戸期の唐話学は、口語語彙を字数に応じて配列するという発想を含め、口語辞書というものの枠組みを『語録解』から借りたのだと推定することができる。

<参考文献>

- 阿部吉雄(1965)『日本朱子学と朝鮮』東京：東京大学出版会。
- 安秉禧(1983a)「《語録解》解題」『韓國文化』4：153-170；(1992)『國語史資料研究』474-494。서울：文學과 知性社。
- 安秉禧(1983b)「《語録解》(原刊本・改刊本)影印」『韓國文化』4：171-316。

- 遠藤光暁・伊藤英人・鄭丞惠・竹越孝・更科慎一・朴眞完・曲曉雲編（2009）『譯學書文獻目録』 서울：博文社。
- 大谷森繁（1981）「語録解について—その書誌的検討と朝鮮小説史からの考察—」『朝鮮学報』99・100：279-301。
- 岡田袈裟男（2006）『江戸異言語接触—蘭語・唐話と近代日本語』東京：笠間書院。
- 神林裕子（1997）「江戸時代における中国近世語の受容—留守希斎撰『語録訳義』を通じて」『中国研究集刊』来（19）：1726-1771。
- 慶応義塾大学斯道文庫編（1962-64）『江戸時代書林出版書籍目録集成』（斯道文庫書誌叢刊1，全4冊）東京：井上書房。
- 河野六郎（1947）「朝鮮語ノ羅馬字転写案」『Tôyôgo Kenkyû』2；『河野六郎著作集』1：96-97。東京：平凡社。
- 弘文閣（2005）『語録解異本六種・儒胥必知』서울：弘文閣。
- 古典研究会編（1969-76）『唐話辞書類集』（全20集）東京：古典研究会。
- 近藤啓吾（1986）『『語録辞義』の発見』『山崎闇斎の研究』（神道史研究叢書13）157-173。京都：神道史学会。
- 佐村八郎（1900）『國書解題』東京：六合館（1926増訂改版）。
- 竹越孝（2010）『『語録解』と『水滸伝』』『水滸伝の衝撃』（アジア遊学131）73-79。東京：勉誠出版。
- 波多野太郎編（1991-95）『中国語文資料彙刊』（全20巻）東京：不二出版。
- 村上雅孝（1993）「近世初中期における朝鮮漢字文化の展開」『日本文化研究所研究報告別巻』30：1-15；村上（2005）161-181。
- 村上雅孝（1994）「唐話学の夜明け前—唐話辞書『語録解義』のテキストとその性格—」『国語論究』5：300-326；村上（2005）182-209。
- 村上雅孝（1995）「唐話資料『語録解義』の二字漢語」『文芸研究』139：64-73；村上（2005）210-225。
- 村上雅孝（2005）『近世漢字文化と日本語』東京：おうふう。

<付記>

本稿は、「日韓言語学会議—韓国語を通じた日韓両国の相互理解と共生—」（2010年11月12-13日、於麗澤大学）において発表した内容に基づくものである。発表当日、東京外国語大学の伊藤英人先生より、本稿冒頭の一節に関し、朝鮮半島において最初に中国語の文言と白話の違いを明確に意識した人物として想定されるのは崔世珍（1467-1543）ではないかとのコメントを受けたことを付記しておく。

『語錄解義』・『語錄解』語釈対照表

No.	『語錄解義』内閣甲本			『語錄解』鄭養本			『語錄解』南二星本			備考	
	出処	字数	語彙	出処	字数	語彙	出処	字数	語彙		
1	1a2	一	也	亦也。	1a4	一	語辭。又sdo。一肩訓亦也。猶也。	1a5	一	語辭。又sdo。肩訓亦也。猶也。	
2	1a2	一	撩	扶也。	2b1	一	de-ui-jab-da。	3a6	一	de-ui-jab-da。○又扱也。取也。理亂曰撩理。	
3	1a3	一	他	彼也。又也。實也。	1a4	一	die。又nA-myi。肩訓彼也。又某人也。	1a5	一	die。又nA-myi。肩訓彼也。又某人也。	
4	1a3	一	恩	潤洞也。薦拳也。	2a4	一	潤全。	—	—	—	
5	1a4	一	矍	左右驚顧。一云視遠泉。	2a6	一	左右驚顧。又視遠泉。	3a1	一	左右驚顧。又視遠泉。	
6	1a4	一	似	向也。	2a3	一	向也。肩訓亦於也。國一身輕似葉。	2b7	一	向也。肩訓亦於也。古詩云。國一身輕似葉。	
7	1a5	一	莽	乱也。	2a5	一	乱也。	—	—	—	
8	1a5	一	生	語辭。	2b2	一	語辭。	3a7	一	語辭。	
9	1a6	一	搥	批也。又也也。	2a6	一	音goig。手打也。批也。	3a1	一	音goig。手打也。批也。	
10	1a6	一	菱	善也。	2a8	一	音弋九切。善也。	3a3	一	未詳。	
11	1a7	一	做	工夫成意。作也。	1b5	一	作也。又工夫成意。	2a4	一	作也。又工夫成意。	
12	1a7	一	跟	足踵也。	2b9	一	音根。足踵也。	3b8	一	音根。足踵也。○亦追隨也。	
13	1a8	一	悵	悲也。又眷夕兒。	2a6	一	音兩。悲也。又眷夕兒。又音朗。不得意。	2b8	一	音兩。悲也。又眷眷貌。又音朗。不得意。	
14	1a8	一	直	正也。	3a5	一	ba-rA。又hAn-gas。	4a6	一	ba-rA。又hAn-gas。○物價ssA-da。	
15	1b1	一	争	何也。	1b6	一	es-diei。又有争之意。	2a7	一	es-diei。又有争之意。○bdy-by-ti-da。俗所謂槽一亦此意。○貼將來hyng-jieng gab-syr ge-sy-rie o-da。	
16	1b1	一	貼	付也。	1b1	一	by-ti-da。俗所謂槽一亦此意。	1b6	一	○貼將來hyng-jieng gab-syr ge-sy-rie o-da。	
17	1b2	一	將	持也。	4b1	一	ga-jie。肩訓持也。	6a3	一	ga-jie。肩訓持也。	
18	1b2	一	麼	乎字意。	1b5	一	語辭。又gy-ri。又i-man。又a-mo-man。又猶言乎否也。	2a5	一	語辭。	
19	1b3	一	踢	跌也。行失正泉。又飛動兒。	3a1	一	音唐。跌一也。行失正泉。又飛動兒。搶也。	4a2	一	音唐。平聲。跌一也。頓伏貌。行失正泉。又飛動兒。又搶也。○又見去聲。cA-da。	
20	1b3	一	在	語辭。有在意。	2a7	一	語辭。有在意。	3a2	一	語辭。有在意。	
21	1b4	一	靚	車戰齊等兒。	3a1	一	音混。車戰齊等兒。	4a3	一	音混。車戰齊等兒。	
22	1b4	一	捩	持頭髮也。	2a7	一	持頭髮也。	—	—	—	
23	1b5	一	要	求也。欲為也。	1a6	一	求也。又by-dAi。又hA-go-jie。	1b1	一	求也。又by-dAi。又hA-go-jie。○音見平聲及去聲。要約也。勒也。固要也。察也。以上平聲。久要也。樞要也。要會也。欲也。以上去聲。	
24	1b5	一	些	少也。	—	—	—	—	—	—	
25	1b6	一	却	在句末者語辭。又旋也。埋却殺却。	1a5	一	語辭。又do-ro-hie。又sdo。肩訓還也。其在末句者語辭。	1a6	一	語辭。又do-ro-hie。又sdo。肩訓還也。其在末句者語辭。	
26	1b6	二	撞着	丁也。當也。	5b8	二	da-di-rA-da。又mas-don-da。肩訓衝着也。	8a5	二	da-di-rA-da。又mas-don-da。肩訓衝着也。	
27	1b7	一	錮	解截也。	3a7	一	解截也。	—	—	—	
28	1b7	一	下	猶言措置。	4a3	一	音hia。下字言a-mA字nAr no-ta。下字son di-ta。下工夫亦猶箇也。	5b3	一	音hia。下字言a-mA字nAr no-ta。下字son di-ta。下工夫亦猶箇也。	
29	1b8	二	零細	猶言瑣細也。	7b7	二	猶箇也。	11b2	二	猶箇也。	
30	1b8	二	嗑著	逢一。	7b4	二	mas-dAs-da。	11a6	二	mas-dAs-da。○易序卦。嗑者合也。即是mas-dAs之義。又嗑當作磕。有撞合之義。磕頭謂之me-ri-jos-da。	
31	2a1	一	霎	音插。少頃也。	3a6	一	音sab。少頃也。小雨也。	4a8	一	音sab。少頃也。小雨也。	
32	2a1	二	從來	自古來今也。	7b8	二	niei-by-te o-mo-ro。	11b4	二	niei-by-te o-mo-ro。	
33	2a2	二	從前	與上同。	8a1	二	ji-en-by-te。	11b7	二	ji-en-by-te。	
34	2a2	二	恁地	猶言如此。	6b3	二	i-ri。猶言如此。	9b2	二	i-ri。猶言如此。○ie-gyi。又ge-gyi。	
35	2a3	二	由來	從來同。	7b9	二	從來全。	11b4	二	從來全。	
36	2a3	二	撲落	擺一。	8a6	二	tie-bti-re-di-da。撲一作撲。	12a5	二	tie-bti-re-di-da。撲一作撲。	語錄解作撲落。
37	2a4	二	從教	任他所為也。	7a9	二	hA-ion-jo-co-ro my-de-ni-de-gi-da。	10b7	二	Ojo-co-ro hA-ie-gom。	
38	2a4	二	任教	與上同。	7b1	二	從教全。	11a1	二	○與任他之意相近。教有教使之意而為語助。下同。	
39	2a5	二	什麼	何事。	7a5	二	與甚麼全。	10b2	二	與甚麼全。	
40	2a5	二	伊麼	彼也。此也。何也。奈也。	7a6	二	i-man。又gy-ren。又die。又i-ri。又gy-ri。	10b4	二	i-man。又gy-ren。又die。又i-ri。又gy-ri。	
41	2a6	二	怎麼	何如。	7a4	二	es-diei-o。	10b1	二	es-diei-o。	
42	2a6	二	厮鬪	戰也。	8a4	二	ssa-hon-da。恐此亦只是相關之義。	12a3	二	ssa-hon-da。恐此亦只是相關之義。	
43	2a7	二	打空	漫意也。	7b3	二	siog-jier-eb-da。	11a4	二	siog-jier-eb-da。○猶言hes-ge-sAr。	
44	2a7	二	撰來	成來也。	7a1	二	mAing-gA-ra-o-da。	10a4	二	mAing-gy-ra-o-da。	
45	2a8	二	一捺	一般也。	7b2	二	hAn-ga-jis。	11a3	二	hAn-ga-jis。○音茶。hAn-ben-bA-rA-da。	
46	2a8	二	一遭	一番也。	7b3	二	hAn-di-ui。	11a5	二	hAn-ben。	
47	2b1	二	一串	一貫也。	7b1	二	hAn-gos。	11a2	二	hAn-gos。○hAn-sgei-om。	
48	2b1	二	一介	一方同。	7b4	二	一方全。hAn-di-ui。	—	—	—	
49	2b2	二	一遍	同。	7b5	二	hAn-di-ui。	11a9	二	hAn-ben。	
50	2b2	二	一般	一樣。	7a9	二	hAn-ga-ji-mya。又一種。	10b9	二	hAn-ga-ji。又一種。	

51	2b3	二	一段	一塊。	5b9	二	hAn-pien. 猶言一片也。	8a6	二	hAn-pien. 猶言一片也。	
52	2b3	二	一面	一方。	23a4	漢	ho-on-ja. 又hAn-nie-ko-ro. 又hAn-ben.	26a6	二	hon-ja. 又hAn-nieg-hy-ro. 又hAn-ben.	
53	2b4	二	一向	正一。直一。	8b5	二	hAn-gAr-gA-ti.	12b8	二	hAn-gor-gA-ti.	
54	2b4	二	一等	猶言一種人。	17b2	二	hAn-cyng. 又hAn-ga-ji.	25b5	二	hAn-cyng. 又hAn-ga-ji.	
55	2b5	三	一副當	一件也。	18a5	三	一件也。溪訓。	32a6	三	一件也。溪訓。	
56	2b5	二	笑殺	一嘔。	7b9	二	u-i-da. 歐陽公詩曰。——汝陰常處。	11b5	二	u-sub-da. 歐陽公詩曰。——汝陰常處士。十年騎馬聽朝	
57	2b6	二	物事	語辭。	5b5	二	事。語辭。如今數物必曰一一二。	8a1	二	事。語辭。如今數物必曰一事二事。	
58	2b6	二	地頭	地末。	8a5	二	sda-gys.	12a5	二	sda-gys. ○猶言本地也。	
59	2b7	二	上頭	上首。	8a4	二	us-me-ri.	12a3	二	us-me-ri. ○die-u-hyi.	
60	2b7	二	裏頭	內首。	7b9	二	sog-me-ri. 又sog-gys.	11b6	二	sog-me-ri. 又sog-gys. ○猶中也。頭語辭。	
61	2b8	二	到頭	猶言到終。	7b8	二	da-dA-rAn-gyd. 眉訓到極也。	11b5	二	da-dA-rAn-gyd. 眉訓到極也。	
62	2b8	二	若為	何為。	7b6	二	es-di.	11b2	二	es-di.	
63	3a1	二	關子	一語辭。	5b7	二	子語辭。如扇子亭子之類。眉訓只是關。	8a3	二	一文書也。子語辭。如扇子亭子之類。	
64	3a1	二	忽地	奄一忽。	7b2	二	myn-dyg.	11a4	二	myn-dyg.	
65	3a2	二	遮莫	遮音折。猶言盡教也。又蓋置也。	8a4	二	遮音折。my-de-ni-ne-gi-da. 猶言儘教也。jin-sir-ro gy-re-kei-hA-da. 遮一作折。	12a4	二	遮音折。猶言儘教也。jin-sir-ro gy-re-kei-hA-da. 遮一作折。	
66	3a2	二	打破	打棄也。	9a2	二	tie-hA-ie bA-ri-da. 溪訓。	13a5	二	tie-hA-ie bA-ri-da. 溪訓。	
67	3a3	二	截斷	止也。	8b7	二	gys-ti-da. 又gys-da.	13a1	二	sgos-da.	
68	3a3	二	惺夕	至明兒。	8b6	二	sgAs-// -da. 又sArb-// -da.	12b8	二	sgAis-sgAs-da.	
69	3a4	二	肚裏	腹內。	9a3	二	bAi-so-og.	13a7	二	bAis-sog.	
70	3a4	二	麗夕	淨也。	8a7	二	落//全。	—	—	—	
71	3a5	二	撈到	皆來也。往也。	8a8	二	da-oa-da-ga-da.	12a8	二	da-oa-da-ga-da.	
72	3a5	二	這箇	於是也。	5a4	二	i-iei. 又i. 又i-ge-si.	7a5	二	i. 又i-ge-si.	
73	3a6	二	落夕	高兒。	8a6	二	jo-ta.	12a6	二	○灑落淨潔之意。灑灑亦同此意。又nAi-do-ta-nob-da.	
74	3a6	二	自是	渠如前為也。	7b5	二	iei-i-ri.	11a7	二	iei-i-ri.	
75	3a7	二	上面	上邊。	6a3	二	un-nieg. 外一裡一前一後一皆以此義推之。	8b3	二	ys-nieg. 外面裡面前後面皆以此義推之。	
76	3a7	二	許多	萬也。幾也。	11a1	二	man-ta.	16a6	二	man-ta.	
77	3a8	二	胡亂	漫擾兒。	8a7	二	e-jy-reb-da. 溪訓。又gan-dai-ro.	12a7	二	e-jy-reb-da. 溪訓。又gan-dai-ro.	
78	3a8	二	提撕	執持也。	6a2	二	jab-dy-da. 眉訓提而振之也。	8b1	二	jab-dy-da. 眉訓提而振之也。	
79	3b1	二	骨子	指當物也。	6b1	二	猶言ys-dy-mi-ra. 指當物也。如言dei-je-bi.	9a7	二	猶言ys-dym-i-ra. 指當物也。如言dei-je-bi.	
80	3b1	二	賺連	過為連着也。一重置也。	6a7	二	過為連着也。	8b7	二	○賺音湛。以輕物買重物曰賺。心經所謂賺。以大學不欺章連小人間居之章者也。	解義作賺過。
81	3b2	二	些子	小兒。乍兒。	5b2	二	jio-go-man. 又jam-sgan. 又beng-y-da.	7b5	二	jio-go-man. 又jam-sgan.	
82	3b2	二	放下	棄也。	7a5	二	no-ha-bA-ri-da.	10b2	二	no-ha-bA-ri-da.	
83	3b3	二	直下	直指下。	8b3	二	ba-rA-nA-rie o-da.	12b5	二	ba-rA-nA-rie o-da.	
84	3b3	二	話弄	漫意來往。	8b1	二	ne-on-// -// -dAn-ni-da.	12b3	二	○不拙約不拘束之意。	語錄解作活弄。
85	3b4	二	自家	我也。	5b4	二	je. 猶言我也。指彼而稱自己亦曰——。	7b7	二	je. 亦云我也。指彼而稱自己曰——。	
86	3b4	二	那裏	彼者。何處。	5a6	二	die-gyi. 又e-nAi. 眉訓一彼處。一何處。	7a8	二	die-gyi. 又e-nAi. 眉訓一彼處。一何處。	
87	3b5	二	合當	相應兒。	5b6	二	mas-dang. 合字亦此意。	8a2	二	mas-dang.	
88	3b5	二	下手	下手也。	7b8	二	下手也。恐與下工夫全。	11b3	二	下手也。恐與下工夫全。	
89	3b6	二	未曾	暫未也。曾者曩也。	10b6	二	jam-sgan-do-a-ni. 又曾a-rAi.	15b8	二	jam-sgan-do-a-ni. 又曾jen-	
90	3b6	二	定疊	安頓也。疊亦定字意。	5b1	二	安頓也。疊亦定意。眉訓堅定。	7b4	二	安頓也。疊亦定意。眉訓堅定。	
91	3b7	二	卜度	斟酌也。	7a8	二	jim-jiag-da.	10b6	二	jim-jiag-da.	
92	3b7	二	逐旋	乾兒。	5b9	二	bdAr-oa. OgAs-gom. jo-co.	8a7	二	bdAr-oa. 又gAs-gom. 又jo-	
93	3b8	一	攔	遮也。	2a9	一	遮也。	3a5	一	遮也。	
94	3b8	一	如	直指兒。	1a7	一	da-hie. 猶今鄉人有所歷舉。則必曰da-hie也。	1b2	一	da-hie. 猶今鄉人有所歷舉。則必曰da-hie也。Oman-ir. 又	
95	4a1	一	惹	亂也。住也。又引着也。	2a8	一	亂也。又引着也。	3a3	一	亂也。又引着也。	
96	4a1	二	消詳	仔細也。	9b4	二	仔細。	14a4	二	仔細。○猶云須用詳細。漢語消與須同義。	
97	4a2	二	闌珊	彫散兒。	9a9	二	餘殘欲盡之意。又意思彫散	13b7	二	餘殘欲盡之意。又意思彫散	
98	4a2	三	多少般	與幾多般同。	18a6	三	幾多般全。	32a8	三	幾多般全。	
99	4a3	三	知多少	某人遊而幾多也。	18a3	三	mo-ro-ri-ro-da en-mei-na-hA-nio.	32a4	三	mo-ro-ri-ro-da en-mei-na-hA-nio. ○唐詩花落知多少亦	
100	4a3	四	禁忌指日	猶僞學之兒。	20a2	四	猶僞學禁目。	36a2	四	猶僞學禁目。	

101	4a4	四	擡眉怒眼	指禪學者。	20a4	四	指禪學人。	36a6	四	指禪學人。○作氣貌。	
102	4a4	三	作麼生	何如。又何事。	18a2	三	es-diei-hA-go。又my-sy-ge-si-ra。	32a3	三	es-diei-hA-go。又my-sy-ge-si-ra。	
103	4a5	三	擔板漢	汝擔而人謂一面。謂不見一面。	18a3	三	ner-mein-nom-i-ra。謂見一面不見一面。	32a5	三	ner-mein-nom-i-ra。謂見一面不見一面。	
104	4a6	四	生面工夫	日新做功。	20a3	四	sai-am-doin。工夫。	36a4	四	sai-am-doin。工夫。	
105	4a6	三	閑說話	漫而說話。	18a4	三	by-jier-eb-si bar-sAm-hA-mi-ra。	32a5	三	by-jier-eb-si bar-sAm-hA-mi-ra。	
106	4a7	二	擔閣	猶言揮棄也。	10a4	二	bes-tyi-ue。不行兒。又一說me-my-da。肩訓揮棄。	15a2	二	bes-tyi-ue。不行貌。又一說me-my-da。肩訓揮棄。○ger-	
107	4a7	四	直下承當	正而的當。	20a3	四	ba-rA-a-da。又ba-rA-dang-hA-i。	36a4	四	ba-rA-a-da。又ba-rA-dang-hA-ie。	解義作直下義當。
108	4a8	二	招認	某人為而自說乎。	11b5	二	一如今da-dim。一引以為証。	17a6	二	招如今da-dim。認引以為証。	
109	4a8	一	了	知也。卒也。事畢也。	1b6	一	語辭。又mAs-da。又a-da。又gos。又jam-gan。肩訓在末句者事之已畢為一。	2a6	一	語辭。又mAs-da。又a-da。又sjam-sgan。肩訓在末句者事之已畢為一。	
110	4b1	一	着	有為也。倚着也。又使也。	1b8	一	猶言為也。又bys-da。又du-da。	2a8	一	猶言為也。又bys-da。又du-da。○語辭。又使也。	
111	4b1	一	作	為也。	1b9	一	為也。亦語辭。	2b2	一	為也。亦語辭。	
112	4b2	一	夯	音向。擔也。	3a1	一	音向。擔也。	4a2	一	音向。擔也。	
113	4b2	一	窳	音蠹也。始為穴也。南陽人呼穿土為窳。又窟也。	3a4	一	音蠹。	—	—	—	
114	4b3	一	猷	音埃。癡也。	3a2	一	音埃。癡也。	4a4	一	音埃。癡也。	
115	4b4	一	錯	誤也。非也。	3a4	一	gy-rAs。又oi-da。	4a6	一	gy-rAs。又oi-da。	
116	4b4	一	來	語辭也。有來意。	2a1	一	語辭。有來意。	2b4	一	語辭。有來意。	
117	4b5	一	才	與總同。	1a3	一	與總同。又gAs。	1a4	一	與總同。又gAs。	
118	4b5	一	[羽父]	弼與同。	3a2	一	弼全。	—	—	—	
119	4b6	一	去	語辭。有去意。	1a7	一	語辭。有去意。肩訓舍此事為彼事之意。	1b2	一	語辭。有去意。肩訓舍此事為彼事之意。	
120	4b6	一	便	即也。又假使也。	1b3	一	gos。又suib-da。又私傳也。如風便是也。肩訓即也。猶假使也。又因人寄書謂之一。	2a1	一	gos。又suib-da。又私傳也。如風便是也。肩訓即也。又因人寄書謂之一。○音見。平聲及去聲。安也。習也。便言也。肥滿也。溲也。以上平聲。利也。宜也。順也。即也。便殿也。便安也。以上去聲。	
121	4b7	一	撒	音殺。	2b1	一	音煞soai。又音散。//之//兒。	3a6	一	音煞soai。又音散。散之之貌。	
122	4b7	一	頭	直也。末也。	1b9	一	gys。	2b2	一	gys。○語辭也。語端皆云頭。	
123	4b8	一	你	汝也。	2b3	一	汝也。肩訓爾也。音ni。	3a8	一	汝也。肩訓爾也。音ni。	
124	4b8	一	管	領得也。	2a1	一	主之也。gA-zAm-a-da。肩訓揔攝也。	2b3	一	主之也。gA-Am-a-da。肩訓揔攝也。	
125	5a1	一	挨	推也。	3a2	一	音埃。推也。	4a4	一	音埃。推也。○按次謂之一次。	
126	5a1	一	較	適而兩物相比而差也。	1a8	一	ma-co-a。直也。不等也。相角也。對兩而計其長短。又gA-jiang。	1b3	一	ma-co-a。直也。不等也。相角也。對兩而計其長短。又gA-jiang。	
127	5a2	一	[羽工]	音紅。飛也。	3a3	一	音hong。飛也。	—	—	—	
128	5a2	一	捏	止也。又來之意。	3a4	一	jui-da。又mo-do-da。又ji-be-moi-ho-da。音nar。	4a5	一	jui-da。又mo-do-da。又ji-be-moi-ho-da。音nar。	
129	5a3	一	渾	皆也。	2b3	一	o-o-ro。猶言全也。	3a8	一	o-o-ro。猶言全也。	
130	5a3	一	沒	無也。	1a6	一	無也。肩訓。	1a8	一	肩訓無也。	
131	5a4	一	儘	任也。又極也。	3a3	一	任也。	4a5	一	任也。○is-ges。又gA-jiang。	
132	5a4	一	僕	人也。	3a5	一	sa-rAm。	—	—	—	
133	5a5	一	合	的也。	2a2	一	mas-dang。又bon-dAi。	2b6	一	mas-dang。又bon-dAi。	
134	5a5	一	滅	消也。	—	—	—	—	—	—	
135	5a6	一	綫	音善。細絲也。	3a3	一	音善。細絲也。	—	—	—	
136	5a6	一	割	觸也。	1b7	一	ji-rA-da。肩訓著也。	2a8	一	音car。刺着也。di-rA-da。○唐人奏事非表非狀者。謂之割。	
137	5a7	一	抹	末也。又破棄也。	3a7	一	hA-ie bA-ri-da。	4b2	一	hA-ie bA-ri-da。Oei-u-ti-da。	
138	5a7	一	底	極處也。	1a3	一	當處也。或作的。又gy-ren-ge-si。肩岩訓。	1a3	一	當處也。或作的。又gy-ren-ge-si。肩岩訓。○根一也。又與地同。又語辭。	
139	5a8	一	解	知也。能也。	1a8	一	a-da。	1b4	一	a-da。○解糧解銀押解。皆輪到卸下之意也。	
140	5a8	一	[并片]	伐也。折也。	1b7	一	bsgai-ie。又biAi-ie。俗析字。	2a7	一	bgai-ie。又biAi-ie。俗析字。	
141	5b1	一	漫	無聊意。	2b4	一	him-//ta。	3b2	一	him-him-ta。	
142	5b1	一	得	語辭。又得意。又有得意。	1b2	一	語辭。又or-ta。有得意。	1b8	一	語辭。又or-ta。有得意。	
143	5b2	一	會	知解也。	2b4	一	a-da。	3b1	一	a-da。○解糧解銀押解。皆輪到卸下之意也。	
144	5b2	一	恰	合足也。	1a9	一	ma-ci。肩訓適當之辭。	1b5	一	ma-ci。肩訓適當之辭。	
145	5b3	一	鎮	恒也。長在兒。	1b8	一	diang-siang。	2b1	一	diang-siang。	
146	5b3	一	那	彼也。何也。	1a7	一	die。又es-di。肩訓彼也。	1b3	一	die。又es-di。肩訓彼也。○又e-dyi。	
147	5b4	一	剎	即浙字。	2a4	一	即浙字。	—	—	—	
148	5b4	一	還	語辭。有却意。	1a9	一	語辭。又do-ro-hie。	1b5	一	語辭。又do-ro-hie。Odang-si-rong。又gab-da。又da-him。	
149	5b5	一	煞	與殺同。	1b3	一	與殺同。ga-jiang。音soai。	2a2	一	與殺同。ga-jiang。音soai。	
150	5b5	一	差	不等也。與較同。相角也。	2a2	一	lie-gi。與較全。又差出之意。	2b5	一	lie-gi。與較全。又差出之意。	

151	5b6	一	遞	公傳也。	2a2	一	公傳也。附遞傳書謂之一。	2a5	一	公傳也。附遞傳書謂之一。○納也。	
152	5b6	一	箇	語辭。又介也。	1a3	一	語辭。有一一—二—之意。	1a3	一	語辭。有一一—二—之意。	
153	5b7	一	交	交付也。與教同。	3a5	一	一付也。	4a7	二	一付也。	
154	5b7	一	捺	乃曷切。又手接也。又壓也。	2a9	一	乃曷切。揜也。手按也。nu-rA-da。	3a4	一	乃曷切。揜也。手按也。nu-ry-da。	
155	5b8	一	便	私傳也。便中使人便風皆一語也。	1b3	一	gos。又suib-da。又私傳也。如風便是也。眉訓即也。猶假使也。又因人寄書謂之一。	2a1	一	gos。又suib-da。又私傳也。如風便是也。眉訓即也。又因人寄書謂之一。○音見。平聲及去聲。安也。習也。便便言也。肥滿也。溲也。以上平聲。利也。宜也。順也。即也。便殿也。便安也。以上去聲。	
156	5b8	一	般	一也。與搬同。	2a3	一	o-o-ro-d。○疑誤。om-gi-da。又ga-ji。	2b7	一	o-ro。疑誤。om-gi-da。又ga-ji。○一一—二—之一也。	
157	6a1	一	按	下也。考也。禁也。	1b3	一	下也。又考也。又禁也。	2a3	一	下也。又考也。又禁也。	
158	6a1	一	訣	別也。辭也。永別之辭。	2a5	一	絕也。又別也。又辭也。	2b8	一	絕也。又別也。又辭也。	
159	6a2	一	靠	音告。憑也。	1b4	一	音告。憑也。	2a3	一	音告。憑也。	
160	6a2	一	和	從也。別本合于本物曰和。又答。	1b1	一	猶言jo-ca。以別物合此物曰一。a-mos-ges jo-ca。	1b6	一	猶言jo-ca。以別物合此物曰一。a-my-ges jo-ca。	
161	6a3	二	免教	避也。	7b2	二	gy-re-kei-ho-myr be-se-ni-da。又bes-gi-da。	11a2	二	gy-re-kei-ho-myr be-se-na-da。又bes-gi-da。○此教字恐或語辭。	
162	6a3	一	閑	遊也。等閑謂不緊無益。	1a4	一	no-da。又siog-jier eb-da。又him-//ta。	1a6	一	no-da。又siog-jier eb-da。又him-him-ta。	
163	6a4	二	怎生	何也。	6b9	二	漢語怎何也。生語辭。e-nAi-es-diei。眉訓何也。	10a2	二	漢語怎何也。生語辭。e-nAi-es-diei。眉訓何也。	
164	6a4	一	摺	音揚。折也。	2b5	一	音tab。die-pi-da。又ges-da。眉訓dieb-dan ma-ri-ra。	3b3	一	音tab。die-pi-da。又sgeg-da。眉訓dieb-dan mar-i-ra。	
165	6a5	一	研	究窮。	2b5	一	窮也。gung-gug。	3b4	一	窮也。gung-gu。○磨也。	解義作研。
166	6a5	二	解教	脫棄也。	7b3	二	be-se-bA-ri-da。○恐誤。	11a4	二	be-se-bA-ri-da。○教字恐或語辭。	解義作解。
167	6a6	二	依前	上同。	8a2	二	ijen-gAs-ti。又A-rAi-by-te。	11b8	二	ijen-gA-ti。又A-rAi-by-te。	
168	6a6	二	甚麼	心也。	7a3	二	my-sum。眉訓何等。	10a7	二	my-sum。眉訓何等。	
169	6a7	二	争奈	彼然而我何也。	7a7	二	hA-gen-ma-nAn gy-re-ke-dyn es-diei-rio。	10b4	二	hA-gen-ma-nAn gy-re-ke-dyn es-diei-rio。OdAs-ton-dyr es-di hA-rio。	
170	6a7	二	橫却	斜衝也。	7b6	二	gA-rA-di-rA-da。	11b1	二	gA-rA-di-rA-da。	
171	6a8	二	委意	知兒。	7a7	二	a-da。	10b5	二	a-da。	
172	6a8	二	點檢	審察。	7a2	二	sAr-pi-da。又siang-go-hA-ie cAr-ho-da。	10a5	二	sAr-bi-da。又siang-go-hA-ia cAr-ho-da。	
173	6b1	二	只管	乍而領得也。	5a6	二	da-ham。又sAr-Ai-ie。	7a7	二	da-ham。又sAr-Ai-ie。Oda-man-gA-Am-a-da。	
174	6b1	二	都慮	皆而置也。	8a2	二	da。又o-//ro。	11b8	二	da。又o-ro。	
175	6b2	二	照領	照管同。審而領悟。	10b9	二	gA-Am-a-da。	16a5	二	gA-Am-a-da。○猶云照數次知也。	
176	6b2	二	伶俐	分明也。	5a4	二	mArg-da-mAr-ki-da。眉訓分明也。	7a6	二	sor-gab-da。眉訓分明也。	
177	6b3	二	的當	合當意。	5b7	二	合當之意。猶言ben-dyg。	8a4	二	合當之意。猶言ben-dyg-da。	
178	6b3	二	主張	張去意。	5a7	二	jiu-bien。○自主已意而張皇之。猶je-jy-da。	7b1	二	jiu-bien。自主已意而張皇之。猶je-jy-da。	
179	6b4	二	巴鼻	頭尾也。又倚着也。	6b8	二	da-hir-dAi-jab-byr-dAi。語類沒巴沒尾。未詳。	9b7	二	da-hir-dAi-jab-yr-dAi。語類沒巴沒尾。未詳。○漢語禽獸之尾謂之尾巴。此謂巴即尾也。鼻即頭也。似是無頭無尾之義。又一說大蛇謂之巴。曾見漢人遇大蛇用小童打一其鼻便死。所謂巴鼻恐是要切處之。	
180	6b4	二	捺合	一會也。	5a3	二	moi-ho-da。又byd-da。捺當作湊。	7a4	二	moi-ho-da。又byd-da。捺當作湊。○猶言輻輳也。	解義作捺合。
181	6b5	二	拈出	執一。	5a7	二	ja-ba-nai-da。	7b1	二	ja-ba-nai-da。	
182	6b5	二	直饒	假使。任其所為也。	7b1	二	hien-ma。又bi-rog。又作僂。又nen-jy-si。	11a1	二	bi-rog。○假使之意也。	
183	6b6	二	知道	識也。	5b3	二	a-da。	7b6	二	a-da。	
184	6b6	二	單提	稜之貌。	5a4	二	bdo-ro-dy-da。眉訓獨舉也。	7a5	二	bdo-ro-dy-da。眉訓獨舉也。	
185	6b7	二	特地	各別也。	6b7	二	各別也。又gA-jang。漢語云bu-re。又tyg-bier-i。	9b7	二	各別也。又gA-jang。漢語bu-re。又tyg-bier-i。	
186	6b7	二	卓午	日中也。	8b4	二	nas。日中也。	12b5	二	nas。○日中也。猶言晌午也。	
187	6b8	二	狀	如此迷惑。	8b2	二	e-ri-go-mi-og-da。	12b3	二	e-ri-go-mi-og-da。	
188	6b8	二	巴頭	異巴歌。不用之歌。異不明之。	—	—	—	—	—	—	
189	7a1	二	替你	汝而一伐也。	—	—	—	—	—	—	
190	7a1	二	腔子	猶軀殼子。	8b8	二	軀殼。	13a2	二	軀殼。	
191	7a2	二	鉢當	猶言體驗甚當。	11b3	二	如云體驗。休得堪當。	17a3	二	如云體驗。體得堪當。	
192	7a2	二	措背	背一也。	6b2	二	dyng-mi-da。	9b1	二	dyng-mi-da。猶言撫摩之。	
193	7a3	二	索性	猶言窮源也。	6a8	二	gA-jang。漢訓。	9a3	二	gA-jang。漢訓。又猶言直截。又jei-mA-Am-y-ro hA-da。	
194	7a3	二	惟僂	短小人也。	9a9	二	短小人。	—	—	—	
195	7a4	二	公案	官文書。	6a9	二	gui-gyr-uer。漢訓。	9a6	二	gui-gyr-uer。漢訓。	
196	7a4	二	谷簾	廬山瀑布散流如簾也。	9b1	二	廬山瀑布散流如簾樣也。	—	—	—	
197	7a5	二	下稍	終也。	6b1	二	nai-jiong。漢訓。	9a6	二	nai-jiong。漢訓。	
198	7a5	二	親事	昏事也。	9a1	二	昏事。	13a4	二	昏事。	
199	7a6	二	收殺	畢終也。	6b5	二	ge-du-e-mAs-da。畢終也。	9b4	二	ge-du-e-mAs-da。畢終也。	
200	7a6	二	末稍	亦終也。	6a9	二	與下稍全。	9a7	二	與下稍全。	

201	7a7	二	郎當	散潤也。	8b5	二	舞態也。反覆不正之兒。猶俗言hei-jeg-si-da。猶狼藉也。	12b7	二	舞態也。反覆不正之貌。猶俗言hei-jes-nAn-da。猶狼藉也。
202	7a7	二	胖合	夫婦各半体合為合下初也。	8b5	二	夫婦各半体合為一也。	—	—	—
203	7a8	二	頓放	安置也。	6b1	二	du-da。	9a8	二	du-da。
204	7a8	二	拆號	考官開見卷子卷號也。	11a1	二	赦之號令。出於易。	16a7	二	bo-ram-sde-hi-da。又榜nai-
205	7b1	二	敦遣	州郡勸送之意。	9a7	二	州郡勸送之意。	—	—	—
206	7b1	二	鑄職	猶言鑄除。	8b2	二	bie-sAr-gA-da。	—	—	—
207	7b2	二	放着	亦置而安也。	5b8	二	du-da。	8a6	二	du-da。
208	7b2	二	疆輔	益友也。	9b2	二	直諒友朋也。	14a1	二	直諒友朋也。
209	7b3	二	鄉上	言向道。	8b7	二	鄉向也。上形而上之上。謂天理也。言向道理。	12b8	二	鄉向也。上形而上之上。謂天理也。言向道理。
210	7b3	二	津遣	道路資送之意。	8b4	二	道路資送之意。	12b6	二	道路資送之意。
211	7b4	二	過着	已為也。着有過之意。	6b5	二	已為也。着字有過意。又與消全。猶言hA-ia-di-nai-da。	9b5	二	已為也。着字有過意。又與消全。猶言hA-ia-di-nai-da。
212	7b4	二	醒醐	酥之精液養成性令人無心。	10b4	二	酥之精液養成性令人無妬心。	—	—	—
213	7b5	二	分疎	猶發明也。	8b7	二	猶發明也。溪訓。	13a1	二	猶發明也。溪訓。
214	7b5	二	推鑿	穿也。	9b7	二	穿也。鑿也。	14b1	二	穿也。鑿也。
215	7b6	二	地步	地頭也。	9a2	二	頭也。又地也。	13a6	二	頭也。又地也。○猶言里數也。
216	7b6	二	使臺	監司兼風憲。	8b6	二	監史兼風憲。	—	—	—
217	7b7	二	俵々	無見兒。	8b8	二	失路兒。	13a2	二	失路貌。無見貌。○一音長。又見敬韻。
218	7b7	二	不托	餅也。	16a8	二	或作[食不]託。na-hoa之類。	24a5	二	或作[食不]託。na-hoa之類。
219	7b8	二	解額	解使遣之意。	8b9	二	解使遣去之意。額數也。	13a3	二	○秋闈鄉試之額數也。
220	7b8	二	下落	猶歸宿也。	6a6	二	da-hir-dAi。猶歸宿也。	8b7	二	da-hir-dAi。猶歸宿也。
221	8a1	二	下平	一長兒。	—	—	—	—	—	—
222	8a1	二	籠侗	猶含糊。	8b4	二	猶含糊也。又溪訓不分明也。	12b6	二	猶含糊。又溪訓不分明也。
223	8a2	二	胡寫	亂書也。	8b3	二	亂書也。	12b4	二	亂書也。
224	8a2	二	除是	但也。	6a7	二	ir-ran-mar-o。除是人間別有天。是-yr除-hA-go人間-ai各別-hi天-i-is-do-da。言除武夷九曲之天而於人間別有天也。又i-ri-ma-da。	9a1	二	ir-ran-mar-go。除是人間別有天。是-rAr除-hA-go人間-ai各別-hi天-i-is-do-da。又i-ri-ma-da。○猶言須是也。又俗稱除是非之語。
225	8a3	二	何曾	何如。	11a4	二	e-dvi-dei。又es-di-ir-jys。	16b1	二	es-dvi-dei。又es-di-ir-jyg。
226	8a3	三	閑泊董	朽木也。	18a5	三	him-''-ko jab-doi-o-da。	32a8	三	○閑。間漫也。泊董兩人雜魚肉置飯中謂之泊董羹。謂雜亂不切之事也。○漢語泊從木間相重猶朽株槪也。
227	8a4	二	除非	未有不如此而能者也。	6a5	二	a-ni-''-ran-mar-o。又a-ni-mien-mar-ge-si-ni-ra。	9a2	二	與除是同。又gy-re-ti-a-ni-ke-dyn mar-ra。又只是之義。
228	8a4	三	較些子	小而展兒。	18a6	三	jie-gi-beng-y-da。	32b1	三	jie-gi-beng-y-da。○漢語泊從木間相重猶朽株槪也。
229	8a5	二	骨董	飲食雜烹之羹。——羹雜也。	10a2	二	雜也。	14b7	二	雜也。○義見三字類。
230	8a5	三	幾多般	幾何持也。	18a4	三	en-mei-na-hAn-ga-ji-o。	32a6	三	en-mei-na-hAn-ga-ji-o。